



耐震改修・屋根替え工事（瑞龍寺様）

静岡市葵区の瑞龍寺様（曹洞宗）で本堂・諸堂の耐震改修工事が昨年からは始まり、昨年の十二月二十七日には位牌堂内部の上棟の法要も行われました。木造構造部の骨格が組上がったので工事安穩を願い、ご住職にお経を上げていただきました。

工事はこれからも本堂の屋根替え工事と耐震改修工事や、その他の建物の耐震改修工事やリフォーム工事などを順次進めて来年の五月の完成を予定しています。まだまだ工事は続きますが、工事終了後には檀家の皆様にも喜んでいただけるのではないかと思います。

瑞龍寺様は駿河七ヶ寺の一つで駿河城を居城とした徳川家康とは交流がありました。そして徳川家康の正室で豊臣秀吉の妹の旭姫のお墓があり、旭姫の法名が「瑞龍寺殿光室総旭大禅定尼」ということから、瑞龍寺の寺名になりました。

完成まであと少し（蔵福寺様）

神奈川県伊勢原市の蔵福寺様では、今年の七月の完成に向けて工事を進めております。屋根の銅板工事、外壁の漆喰塗りなどの外周りの工事が大方になり、外部足場がとりはずされました。

現在、内部は天井貼りも終了し、床貼りなどの内部造作の作業をしております。外構工事は側溝工事が終わり、これから書院北側の石積み工事に、その後雨落ちの工事へと続きます。本堂完成後は二期工事としてトイレリフォーム工事とつなぎの廊下の工事をして完成引渡しになります。



上の写真は内陣の来迎柱に旧本堂の既存の獅子頭を取り付けたところです。この獅子頭は棟梁の小澤の提案で木鼻の代わりに取付、ご住職や建設委員の方には喜んでいただきました。

木造建造物を長く維持するために

龍泉寺様(浜松市浜北区・曹洞宗)では今年の一月の初めから本堂の改修、補修工事を行いました。今回内陣の床板を張り替えるにあたり、いい機会なので床下の補強も同時に行うことができました。骨格である構造はしっかりしています。が、経年劣化による化粧部材の傷みや、床のたわみなども補修しました。このように手入れることで長く建物を維持できることを、ご住職は十分に理解していただいています。



そして浜松市東区小池町にある長泉寺様(臨済宗方広寺派)では位牌堂の改修工事が二月から始まりました。主な工事は瓦の葺き替えと畳の床を補強しながらフローリングに張り替えです。大引を三尺(九〇cm)ピッチに入れ、根太間も一尺(三〇cm)ピッチに入替え補強をしました。そしてこれから屋根葺き替え工事を、春のお彼岸までに完成の予定で工事を進めてまいります。



木造の本堂の場合、屋根の瓦葺きは百年ごとの屋根の葺き替えをしたほうがいいでしょう。屋根が銅板葺きの場合はいくつかあります。そして屋根の葺き替え工事の時に軒廻りの腐ったところの点検と部分補修も行います。軒廻りは雨があたると北東の傷みが早いです。そして三〇〇〜四〇〇年を目安に全解体修理工事を行い、傷んだ部材の補修や交換すれば千年もたせることができます。

雨樋のつまりも軽く見てはいけません。雨水があふれて外部の木部にあたり、そこから傷んでボロボロになってしまいます。やはり雨があたるところの傷みが早いので、湿気の多い所は要注意です。耐震補強工事を検討されている方や、床がぶかぶかしているなど気になる点などがございましたら、弊社にご連絡いただければ無料で見積もりをさせていただきます。

また本堂は構造上床を高く作るため書院と段差ができてしまいます。足の不自由な方や、お年寄りのためにスロープや、手摺なども施工しておりますので、お気軽に連絡いただければ見積らせていただきます。

「布教活動のいろいろ」

日本テンプレヴァン(株)井上拓郎

「動画で法話」

春は卒業や入学、新社会人の入社などの新たな門出の季節でもあります。初々しいスーツ姿を見ると、自分にもそんな当時はあった事を懐かしく思います。

私が小学生だった頃の「将来になりたい職業」は、スポーツ選手(野球やサッカー)、運転手(バスや電車など)、警察官、医師、先生などが上位だったと思います。三〇年経った現在はどうかと、スポーツ選手(野球選手一位、サッカー選手二位)、医師三位、ゲーム制作関連四位、建設士五位となっております。上位は昔も今も変わっていない事がわかります。そして六位にランクインしたのが、ユーチューバーという職業でした。(二〇一七年度「将来になりたい職業」男児、日本FP協会調べ)

ユーチューバーとは、「YouTube」という無料動画投稿サイトに自ら製作した映像などを投稿し、広告収入などを収益とする職業です。基本的には、映像を投稿する側も、観る側も無料で利用できます。また広告を掲載する企業が広告費を支払う為、制作した動画の閲覧数が多いほど、広

告収入も多くなるという仕組みです。手軽に始められる反面、閲覧数を増やすことは簡単な事ではなく、生業にできるのはごく一握りの人というのが現実です。しかしこのユーチューブですが、職業として収入を得る以外にも、不特定多数の人に閲覧してもらえるといった利点もあり、「法話」といって検索すると、僧侶の方々の法話がたくさん出てきます。活字よりも動画で見ることが、言葉の言い方や、間の取り方、視線の配り方など、法話を話されている方の真意が伝わりやすく感じ取ることが出来ます。法話以外にも、般若心経や御詠歌などの映像もあり、布教の方法も時代とともに変化してきているのだと感じました。

昔に比べて経済は豊かになり、道具も進化し、便利になりました。世の中の人々も時代の変化(進化)に遅れないように、必死に生きている方が大半なのだと思います。

皆さんも様々な布教活動をされている事と思いますが、昔ながらの布教活動以外にも、現代の方々に受け入れられやすい布教活動も必要なのかもしれません。

「動画でお寺紹介」

東京二三区で一〇〇万部以上を発行しているフリーペーパーがあります。区単位でその町の様々な情報を掲載し、無料で配付

をしています。このフリーペーパーを発売している「一般社団法人日本地域振興新聞社」は、紙面での情報発信以外にも、ホームページなどに記事を掲載しております。このように複数の手段で情報(広告)を発信する事を「メディアミックス」と言います。出版業界や広告業界では、一般的な手法ですが、お寺の業界では聞きなれない言葉かもしれません。今回はこの手法を用いた新しい取り組み「動画でお寺紹介」について紹介したいと思います。

静岡県富士宮市出身の里見浩太郎さんが、東京二三区のお寺を巡り、そのご寺院の歴史や、日々の活動についてご紹介する動画の配信が今月から始まりました。ご住職との対談形式で進行する「里見浩太郎のお寺探訪」という番組です。動画の配信と同時にフリーペーパーでも同様の内容を記事にして発信しています。製作費は紙面での広告費で賄っており、ご寺院の金銭的な負担はありません。まだ東京二三区内での活動ですが、お寺の広報の手段として今後の展開が楽しみな取り組みだと思えます。「里見浩太郎のお寺探訪」LOCALFACE」と検索すると、動画を観ることが出来ます。ご関心のある方は、是非ご覧になってみて下さい。

食品ロスの話 知って得する

節分に恵方巻を食べるといふ風習があります。今年の一月に農林水産省がコンビニエンスストアやスーパーなどの業界団体に対して、需要に見合う製造・販売を行うように文書で通知するとニュースになりました。恵方巻に限りませんが、売れ残った大量の食品が廃棄されています。

まだ食べられるのに捨てられている食べ物、いわゆる「食品ロス」が日本では年間約六三二万トンに上り、これは世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた世界の食料援助量(平成二六年で年間約三二〇万トン)を大きく上回る量で、日本人一人当たり換算すると、毎日お茶碗約一杯分(役一三六g)のご飯を捨てていることとなります。日本の食料自給率は三九%(平成二七年度)で大半を輸入に頼っています。その一方でまだ食べられる食料を大量に捨てているという現実があります。

食品ロスは食品メーカーや卸、小売店、家庭など様々な所で発生しています。家庭においても食品ロスは、全体の約半数にあたる三〇二万トンが発生しています。食材別にみると最も多いの

は野菜、次に調理加工品、果実類、魚介類で、捨てた理由は「鮮度の低下、腐敗、カビの発生、消費期限、賞味期限が過ぎた」などになっています。

加工商品には「消費期限」と「賞味期限」表示されていますが、どのような違いがあるのでしょうか。

「消費期限」は品質の劣化が早い食品に表示されている「食べても安全な期限」のため、それを超えたものは食べない方が安全です。「賞味期限」は品質の劣化が比較的遅い食品に表示されている「おいしく食べられる期限」で、それを超えてもすぐに食べられなくなるわけではありません。賞味期限を超えた食品については見た目や臭いなどで個別に判断したほうがいいでしょう。消費期限や賞味期限は、表示されている保存の方法で保存した場合の開封前の期限です。一度開封したら期限にかかわらず早めに食べましょう。普段の買い物も安いからといって買いすぎたり、在庫があるのに同じものを買ってしまった、腐らせて捨ててしまったということとは多くの人が経験していることと思います。

また各家庭の廃棄物が減ることによって、自治体のゴミ処理のコストの削減にもつながります。

外食時も食べ残しをしないため、食べられる分だけ注文をする、残ったものは持ち帰ることができれば自己責任で持ち帰りましょう。また宴会などの席では、最初の三〇分と最後の一〇分を食事を楽しむ時間と決める「三〇一〇運動」という食べ残しを減らす取り組みもあります。これは二〇一一年長野県松本市の市長が、宴会の食べ残しの多さを問題視し、市のゴミを担当する部署と協力して展開した運動です。弊社の新年会でもこの運動を実践した結果食べ残しも減り、料理もおいしくいただけただけなので参加者からは好評でした。今後もこのような取組を進めていきたいと思っています。

